

3年1組

 トカラヤギのトカちゃん一家との3年目のくらし
 ～トカちゃんたちがいたからこそ、今の私たちがある～


3年間、共にくらししてきたトカちゃんたちとお別れをした子どもたち。

振り返りの時間には、この3年間でトカちゃんたちと学んだことが次々に語られていきます。その中で、「ヤギを飼えば、動物を飼えば、必ずこうした学びが生まれるのか」という話になっていきました。

「動物を飼えば、えさや小屋のことは必ず考えなきゃいけないし、交尾もできるかもしれない。そうしたら出産からも学べるし、完全に同じじゃないけど、似たような学びになっていくと思う」とA君が語ると「ちょっと待って」とB君たちが語り出します。

「ぼくはトカちゃんじゃなかったら、こんなにも一生懸命にはならなかったと思う。トットの去勢のことだって、トットのことだから一生懸命に考えて、今もまだ考えている」(B君)

「去勢も今の自分たちで話し合ったら違う結論になっていくかもしれない2年生の時は『去勢して家族とくらすの方がいい』って思ったけど、今の自分だったら、もっとよく考えたいと思う」(C君)

「ここまで学びを選んできたのは、自分たちだから、子どもが違えば、クラスが違えば、担任の先生が違えば、違う学びになっていくと思う」(Dさん)

子どもたちの話を聞きながら、学びを構成する要素の中に「先生」という存在がある事に、ドキッとしました。反面、そこに自分の存在も感じてもらっていることに嬉しさも感じました。「3-1の子どもたち」「トカちゃんというヤギ」「吉澤という教師」この3者だったからこそ、この3年間があった。トカちゃんとのくらしを振り返る中で、子どもたちの話から、そんなことを感じると、思わず涙が出そうになりました。

この授業の振り返りにE君は、「トカちゃんがクラスのみなをつないでくれた」と綴っていました。また、Fさんは「トカちゃんたちがいたから、今の自分たちがいるんだと思う」と綴っていました。

トカちゃんとでなければ、この仲間とでなければ、この教師とでなければ生まれなかった3年間のくらし・学び。

動物とくらせば、こんな学びが生まれます、こんな子どもが育ちます。そんな定型はありません。目の前の命に、子どもも、教師も自分の精一杯で向き合っていく、そんな1日1日の積み重ねによって、「その学級にとっての動物飼育の学び」「その子にとっての動物飼育の学び」がつけられていくのだと思います。

「この子たちとくらすから今の自分がある」。教師として、人としてどう生きていきたいのか、子どもたちにたくさんのことを教えてもらった大切な3年間になりました。

